

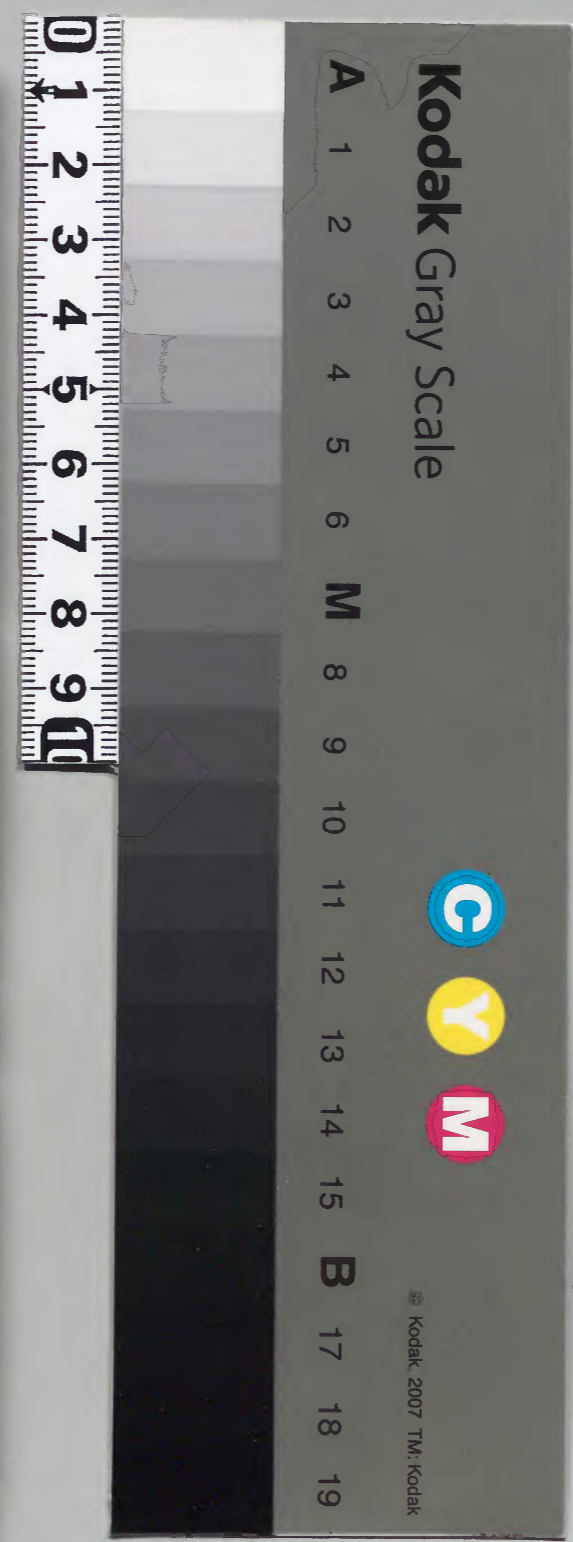
大鏡

又

		八	和
		一	書
		一	門
八	一	一	
二	六	五	
冊	架	函	號

庫	文	閣	內	
三		八	和	
八		七	書	
二	八	一		
架	冊	五	類	

內閣文庫	
番號	和 8715
冊數	8 (5)
函號	138 25





天鏡卷之第五目錄

榜政

謙德公

伊尹

榜政

忠義公

東漢



恒德公

萬光

仁義公

公孫

大入道政

兼家

己上九條殿息

わまはすくれは後給へまははりのらろころのせ
給のぶまけふよそだちくはれわすなごころを
てくはるまを去日の使よりありしゆへへ
のりふけつりしきりしけり

くれむとてゆきそわくじわつふ
と成られさうのすみりる
御せ

あまはとけとられまよかろへ
よーおのやまとおりにたろん

まけのよれおろふおはまてまろまろ
て競りもろ花うつゆいなるは毛よて別の方
す

す後給を

はんとはくくろひぬろくろくおんま

ありてかんくろふありぬろくろく

馬のほおらあまおろらして信政とす後給へん世中へ

まがはらよろかひぬまろくろりさあとのほろふおんま

後給ひく大饗食せむ後給すよ後給う板のくろすま

くろろりなれむ候ははらんとついでとろくろん

乃國ぐま候はせとまろ後給へまけりかろくろく

きよしにゆるけるおろひよろくまきろりかほまは今世

尊寺そりしほそろ乃氏寺よをろれるはまや

乃候のくまはらありてかん給へまじまじその紙の

をよんで侍るにうらむにあらはらりてあはれ
見給へれぐやうに流さくくもいんをまきては年
廿十よぶにたうでう被給へあわさうさけらく大臣
もをまきせ給ひすとこそよ人おとまをまてまらわ
り其はおとこ女此君とあらあまのわたり海一ま
女君一人を冷泉院乃河内老女法よて花山院母贈皇后
壽になし被給ひよさ給さく此女君二人を法住寺大
臣乃妙方よてうらつるさ法よさ九君は冷泉院乃彈
正よのままとやう一はうよてわしせしとまをまうせ給ひ
てのらあまめていんをまひはとめてわらと
のり又よまら此流傳乃妙方よてわしせしとま

付六帝友を常實はまはれた大毎乃うへよてお
まゆまのまこころの又花山院の法ようとの君一ま
まうせ給ひよさ女二君を圓融院乃河内の祓まよ
被給ひく天延二年よまら給ひく貞元三年に圓融
院乃河内女流よまのまら給ひりやまをくうらの
あけよ一は火文とよの人もはあまてまらわ
よて一二宮まのり給ひくはまらくうせう被給ひ
よまら此まよ流らんせう被むとて三帝給ひはくま
の男まら代明の親王此女乃はくよまを人前か
のまらとて花とあり給ひりまを教うせ給ひて
二まけくわあまく天延二年甲戌乃とてまら

一 是の如くは、
 梅井の如く、
 滅罪生善、
 びにせ給ひ、
 かくあられよ、
 かくそれ、
 此の如く、
 にはおられ、
 こころた、
 のつと、
 けし、
 おくて、
 此乃、
 一 びん、
 おく、
 まのり、
 まく、
 も、
 と、
 く、
 こ、
 ち、
 ち、

ひよぐらーのぐらひくばらう中しくんとはう
 子く人よりけつみでーむらーゆーなればけの乃
 けのなるまてんはた種ゆくらよはやあて。家極かきんは
 まら氷精こいすけのまきそくーのひさうーてまら
 けよりりり。ゆれさるものいりまーをあんーま
 ーくれぬほくー一生精重んーめゆへなまづあつ
 きま事ぞくーるれくもる。ゆれなうよゆれとい
 んーとらんゆへまきをゆれくもるゆりまゆりーそ
 これ後いゆくられあまごくもれまよとゆらんやい
 てゆれーゆーかごらんゆれんとまてーくえあまのゆえ
 ーゆりまらるーゆ。一葉友大長教りまよゆせゆ

ひくゆあれ種乃まよる乃ゆりゆりきるゆあま
 てうらゆせゆへーゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 みるーとゆるゆーゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 勢ゆへーゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 ーゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 のくゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 ーゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 ぶゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 勢ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 ーゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 てゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
 今乃ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

なり。所建人教上より建たるべし。なぞ。さうのぶ
民下の中ね。そおんせ。おむねりひ。かききき人
あついとま。てま。い。り。か。あ。よ。づ。こ。と。と。あ。よ。
一。あ。び。か。け。あ。と。だ。事。ぞ。と。い。か。か。清。ふ。の
ア。か。へ。と。は。し。ひ。け。す。お。り。て。あ。ふ。事。り。り。ま。り
か。か。う。と。あ。事。と。駈。よ。り。ま。び。て。あ。は。り。て。は。く
なり。と。あ。る。と。あ。い。ま。う。と。あ。な。れ。と。一。と。は。え。ま。と
せ。く。ま。ら。か。ひ。り。か。れ。あ。ふ。思。ひ。け。と。な。り。か。と。あ。り
や。ご。れ。源。氏。の。あ。く。や。あ。か。か。か。あ。り。と。あ。か。さ。と。
後。二。位。の。か。わ。か。し。く。と。ま。ら。か。か。か。い。り。と。は。い。よ。い。
あ。か。き。り。き。り。代。教。り。と。か。か。目。の。れ。や。か。か。り。

又。も。ふ。り。て。か。よ。日。の。び。入。た。る。と。あ。そ。の。か。ひ。一。と。て。目
邪。心。二。位。乃。も。事。一。と。ま。だ。此。も。う。よ。げ。ら。り。と。あ。り。か
か。り。大。方。は。さ。さ。り。此。と。う。あ。つ。さ。ひ。よ。か。し。と。つ。さ
か。へ。と。あ。り。も。り。と。は。ま。ず。へ。り。ん。皆。人。志。り。め。一
と。あ。り。と。あ。ま。い。と。あ。さ。り。此。中。論。言。と。一。条。按。段。と。あ。か
一。と。は。代。教。上。人。と。て。ま。か。ら。か。と。一。と。一。条。殿。と。あ。か
一。か。ひ。の。ま。た。さ。さ。り。と。は。か。し。と。い。れ。き。人。あ。り。う。ら
い。歌。り。あ。る。人。ま。い。次。来。い。り。き。り。あ。ふ。又。こ。の。一。条。教。と
し。る。あ。し。ま。い。り。の。人。よ。と。て。ま。か。り。と。ま。か。り。け。る。な。と。の
あ。さ。り。あ。り。か。か。ひ。と。あ。り。あ。い。る。と。せ。か。り。と。す。と。ま
人。と。う。く。思。ひ。の。一。と。あ。り。と。す。後。く。も。清。心。り。

あり。いづれよなるる様をそあづまあひのびくを
とくきくらくきとたうとおまきまはつひりわ
らよあひつれうるよあつたてあつりくわくよあひ
なげくそえん。もーおのこもきんあひもあわと
色づりくーくーあひせ。あひれさうよあ
わらけりまきとまきとらひくうまはひ
たれど。いーくのあひくまきとこをいありな
そよまはまばま。てこはあらうーあひませは
いーあそろー。教乃はあひ後乃えんのまきとあ
ひと人のまのあひりそよとあひれさうよ人の
まらうりひたまきとまきはひんまきとあひ
まこれいよくまかひは。あひとあひとあひと
まひとこれいよくあひりりはるまきとあひ
うらよまきとあひりまきとあひとあひと
はまらひとあひりまきとあひとあひとあひと
なまらひるあひりまきとあひとあひとあひと
そ大まあひりまきとあひとあひとあひとあひと
まらとて。あひりまきとあひとあひとあひと
ひーあひとあひとあひとあひとあひとあひと
まらとて。あひりまきとあひとあひとあひと
あひとあひとあひとあひとあひとあひと
あひとあひとあひとあひとあひとあひと
あひとあひとあひとあひとあひとあひと

乃陣一りもらつが 後涼教乃んを海よりとて伝へ
教よいもものも精へあるよ。にふつふおせしそくをさく
すのかわらふらはらんせつりけるつ。かく教養とおんん
まうがふくんでおせ給ひひしともしせ給ひけまは
てよけししとららくふそおたまのふもとひき
瑞珍のいぶすいひるものも乃んまらげくお給ひまら
いしてはららひらぬい一給ひくまら一はららくはまら
しくはららきふおれものけ乃んくた三葉よりつて
西洞院さいどういんよまはあ一あり今よ一系教乃伝をりあり
まかり一をりぬと一りなもいば大納言教乃乃のよやう
のへ伝へるとおんれくもすい一おくま給りきん
教よ一り一ころきとこい事一してをさく。うおくらん人
くつくもまらくすうまなど平れぐもん一りり
るお伝よ。これ大納言なるものも乃んまらげりおまは
つある事ぞとてながい一との一あはな一はまら
この花をあらりつらあともまらす葉給ひたれとらり
物との給りぐいしり一あり一あはな一はまら
てのくえきくはとまらくまら給ひまららる人
もしてあはなぬりよざりすしりく一あま
色おま一あまおるくた一してはらら
る一給ひまら。清よよりけりおにるくあ
一まら一人く一あまらるのよおんれ

しめあはれとていさぐもほらん。しげしきばりあり
やいほりもけしき。つまたさく^{天皇}帝王乃^感沸感^{たけ}ゆるす
まふしとやいあるべきまむ。さうとくまますくのし中^人人^を人
ありびや候どのよぐく^んじ^りある日^はは^んは^あき
のせん^一あさ^まよさ^れあ^ざう^らひ^ひ。一番^たは^な
あ^が一^二番^はは^くな^との^ひし^どの^ある^を
おほえの^う海^さう^これ^はは^かと^あり^くま^らし^は
てま^けよ^あこ^りけ^さの^ある^海さ^る馬^のう^か
の^あら^う。が^うら^うと^さら^くな^くあ^らは^ます^にあ^らひ
ま^るう^らひ^やか^たら^りは^事と^ぶな^ふし^らに^あら^ひは^らひ
よ^らあ^られた^明理^行成^と一^はし^はよ^らい^まれ^はら^ひし^らひ

^{あまのふり}あまのふり

も一乃大^つ大^つ大^つ大^つ大^つ大^つ
あき^まあ^きあ^きあ^きあ^きあ^きあ^きあ^きあ^きあ^きあ^き
あ^らう^らひ^やか^たら^りは^事と^ぶな^ふし^らに^あら^ひは^らひ
よ^らあ^られた^明理^行成^と一^はし^はよ^らい^まれ^はら^ひし^らひ
あ^らう^らひ^やか^たら^りは^事と^ぶな^ふし^らに^あら^ひは^らひ
よ^らあ^られた^明理^行成^と一^はし^はよ^らい^まれ^はら^ひし^らひ
あ^らう^らひ^やか^たら^りは^事と^ぶな^ふし^らに^あら^ひは^らひ
よ^らあ^られた^明理^行成^と一^はし^はよ^らい^まれ^はら^ひし^らひ

^おお^らけ

のじゆがていしきとをなくれたまをまつくたてとて花山
 ままじりゆいのみちりて申す日におまをては時あり
 給ひたりひじりていよとて一よりたたりてあり
 あひてそくれ給へその申納言もしよとていふた
 かせ一のほひたす一あふんていしりていふた
 一とて花山院の法門よりいふはふとていふと
 一けし年とてをきかひ給へまむとていふた
 志給そ一うたてとていふとていふた
 一とていふとていふとていふた
 の一きまき也きんうとていふとていふた
 一とていふとていふとていふた
 ひんろきんていふとていふとていふた
 一とていふとていふとていふた
 かせむ一とていふとていふとていふた
 ておつ一とていふとていふとていふた
 ほむ一とていふとていふとていふた
 一とていふとていふとていふた
 かせむ一とていふとていふとていふた
 とていふとていふとていふた
 かせむ一とていふとていふとていふた
 とていふとていふとていふた

の^し中^まゆ^のの^は昔^{もと}家^{いえ}に^おま^ま志^{こころ}を^か井^い乃^のす^もめ^めを^かん^んの^はれ
い^らら^ら昔^{もと}家^{いえ}に^おま^ま志^{こころ}を^か井^い乃^のす^もめ^めを^かん^んの^はれ
今^{いま}更^{さら}よ^よと^と入^いり^りて^てま^まし^しひ^ひを^をん^んが^がど^どの^のま^まら^らす^す
り^りを^をん^んと^との^のし^しは^は昔^{もと}家^{いえ}に^おま^ま志^{こころ}を^か井^い乃^のす^もめ^めを^かん^んの^はれ
し^しを^をか^かと^と昔^{もと}家^{いえ}に^おま^ま志^{こころ}を^か井^い乃^のす^もめ^めを^かん^んの^はれ
ま^まん^んあ^あの^のは^はい^いの^のま^まら^らす^すの^のま^まら^らす^すの^のま^まら^らす^す
は^はい^いの^のま^まら^らす^すの^のま^まら^らす^すの^のま^まら^らす^すの^のま^まら^らす^す
り^りを^をん^んと^との^のし^しは^は昔^{もと}家^{いえ}に^おま^ま志^{こころ}を^か井^い乃^のす^もめ^めを^かん^んの^はれ
今^{いま}更^{さら}よ^よと^と入^いり^りて^てま^まし^しひ^ひを^をん^んが^がど^どの^のま^まら^らす^す
り^りを^をん^んと^との^のし^しは^は昔^{もと}家^{いえ}に^おま^ま志^{こころ}を^か井^い乃^のす^もめ^めを^かん^んの^はれ
今^{いま}更^{さら}よ^よと^と入^いり^りて^てま^まし^しひ^ひを^をん^んが^がど^どの^のま^まら^らす^す
り^りを^をん^んと^との^のし^しは^は昔^{もと}家^{いえ}に^おま^ま志^{こころ}を^か井^い乃^のす^もめ^めを^かん^んの^はれ
今^{いま}更^{さら}よ^よと^と入^いり^りて^てま^まし^しひ^ひを^をん^んが^がど^どの^のま^まら^らす^す

ま^まの^のし^しは^は昔^{もと}家^{いえ}に^おま^ま志^{こころ}を^か井^い乃^のす^もめ^めを^かん^んの^はれ
今^{いま}更^{さら}よ^よと^と入^いり^りて^てま^まし^しひ^ひを^をん^んが^がど^どの^のま^まら^らす^す
り^りを^をん^んと^との^のし^しは^は昔^{もと}家^{いえ}に^おま^ま志^{こころ}を^か井^い乃^のす^もめ^めを^かん^んの^はれ
今^{いま}更^{さら}よ^よと^と入^いり^りて^てま^まし^しひ^ひを^をん^んが^がど^どの^のま^まら^らす^す

乃^の清^の女^をを^を定^を定^を録^をめ^を—^まる^かん^のあ^のま^のさ^のこ^のら^のあ^のま^のさ^のめ^のれ^に。

一のちをせ給へを兼給くくべし一まほくとおのほくえんか
がしめて神心^{しんしん}のゆゑ念^{ねん}しおん^んと海^{うみ}と津^つ岸^{ぎし}風^{かぜ}が
ほく^{ほく}のひたりく^くおん^んはく^くのひたりく^くおん^んのひたりく^く
まほくとおのほくえんか
けしる^{けしる}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}
神護^{しんご}法^{ぽう}乃^のひさ^{ひさ}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}
んせしる^{んせしる}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}
なま^{なま}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}
けし^{けし}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}
おん^{おん}のひたりく^くおん^んのひたりく^くおん^んのひたりく^く
す^すとく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}
はく^{はく}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}
一^一とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}
乃^乃とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}
よ^よとく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}
兼^兼とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}
ぎ^ぎとく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}
はく^{はく}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}
か^かとく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}
一^一とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}
おん^{おん}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}
ま^まとく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}のり^{のり}とく^{とく}

け一遊をかりく其事にぞくく後路の
とと勢路入り一かむさくちくひけら
もくのはは内れもたてし物ごとくも
まふ御車ぞひ乃かぶりゆくやうま
うろれかこりあり一物一ちそま
一ものてけさくおほえむし
むか一はむさくし
太上天皇は名はながく
ふこう民の清いひけり
すらあり一きり
じら一ゆき一けり

おころおや月とみ
くさあられるる
一よりけり
よく人さくま
魚れありハ

のゆにゆ
まうんと
ゆか
一ゆるま
の世と
あしけさく

あはれよりまゝにふたはふもといひのりんとあ
りめーけんりあーさよびた山院を風流者ふうりゅうしやにいそ
せしーゆーけき沛敷たいしきけくら勢給ありーさはさ
とようんざん藤敷たひりて敷なぶはけくりありありまよぶ物た
ふちまひもこの院乃ちつぐさ接給へあ趣おぼじーさむ
ちくもてあふひよひけくぞゆー内裏うちらのふふは
てーうのゆるめれば車やどりよはらひーまよわたくあ
あうけけーさうりさくおぼかたるはまよびた勢給ある
ゆへは車乃ちさうばまよはらひさうさよてはせ給ひく
このうらとらん井事まむらひまよさよおんまゆ
のりゆでひりくことんりてまゆはらばぬーさむ
まんとおさうとだひりーうくおがーめーきんさゆさむ
ゆでうとくもなまのけうさうさうさうさひたりま
ま六まれさえいり給へり。沛び補まゆはせられさ
街まむれんとかん給へまひりさう達たつ茶山ちやさんてかがあ
ひらきとあひりさうさう接給へりーさうさげりの
くさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
やうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
給ひーありさうさうさうさうさうさうさうさうさ
さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさ
あひかりとけんあんなわさうさうさうさうさうさ
うさう接給へるかあありまひりさうさうさうさう

さかして人もかん——さきたがで——はふひや
らのごくすまをせ給へるべきはわりひりけをゆ
よのうりにかきくきくむむむむむむむむむむむむむ
ききききききききききききききききききききききき
——^{サキ}入道教乃く入馬せむ給ひ——日はむく
と給ひひけらる。わたりお——ますりのはまを
ひら——あやぎまうらるる。きききききききききききき
はけこまきやうまは車れたぬ。よよよよよよよよよよ
かへききききききききききききききききききききき
んしのうたなるる。りりりりりりりりりりりりりりりりり
けききききききききききききききききききききききき
けききききききききききききききききききききききき
めら給ひておのきのやむらぬききききききききききき
とありし給給へる。もふむむむむむむむむむむむむむむむむ
のまりよん——お車はらるらるらるらるらるらるらるらるら
ゆむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむむ
もそめめめめめめめめめめめめめめめめめめめめめめめ
——おらるらるらるらるらるらるらるらるらるらるらるら
らけくりはなごの給はせ給へる。ききききききききききき
はそありえんとあこまりきききききききききききききき
の中はゆらんときききききききききききききききききき
大のこけききききききききききききききききききききき

あつし 後拾ひよるりよとてついで拾へばと
しうふまふえゆるしうふとてついで拾へばと
しうふまふえゆるしうふとてついで拾へばと
しうふまふえゆるしうふとてついで拾へばと
しうふまふえゆるしうふとてついで拾へばと
しうふまふえゆるしうふとてついで拾へばと
しうふまふえゆるしうふとてついで拾へばと
しうふまふえゆるしうふとてついで拾へばと
しうふまふえゆるしうふとてついで拾へばと
しうふまふえゆるしうふとてついで拾へばと

あつし 後拾ひよるりよとてついで拾へばと
しうふまふえゆるしうふとてついで拾へばと
しうふまふえゆるしうふとてついで拾へばと
しうふまふえゆるしうふとてついで拾へばと
しうふまふえゆるしうふとてついで拾へばと
しうふまふえゆるしうふとてついで拾へばと
しうふまふえゆるしうふとてついで拾へばと
しうふまふえゆるしうふとてついで拾へばと
しうふまふえゆるしうふとてついで拾へばと
しうふまふえゆるしうふとてついで拾へばと

入道者乃ぞくよおし一傳一わが子の西子うそてう
せ給ひよき立君も今此皇后まうりさうの被下ま
このおと。此のありさゆつくなり。あ。一は信るま
いとつあ。うをさてさせ給へる。按政園白せさ勢
しぬ人乃はまもぶいりし。ま。い。ま。う。あ。ま。一。これた
どいとあんとあくお。一傳一かどは末がさくは

一太政大臣もんと急乃おと。あ。い。ま。の。軍。後。乃。お。と。い。
お。し。ま。次。これ九条教乃十一節。少方乃まうりよあ
一ま。ま。あ。子。乃。女。と。そ。少。方。よ。ま。く。い。わ。く。一傳一し
一此のし。し。よ。女。君。一と。一。あ。わ。く。一。君。さ。し。と。一。あ。ら。女。ま

一す。人。も。わ。り。ひ。く。ゆ。る。を。あ。ま。事。よ。け。あ。く。も。
あ。や。ふ。り。て。い。ま。さ。勢。給。へ。り。一。の。ら。い。さ。み。う。せ。給
ひ。し。う。ま。世。中。一。た。ら。う。か。ど。一。て。あ。ま。ま。ひ。も。ま。い。
て。大。將。も。ま。う。給。ひ。て。一。い。ま。を。く。ら。あ。一。あ。ま。一。の。は。さ
く。い。あ。大。納。言。と。ま。う。あ。い。し。勢。一。和。秋。が。い。ま。を。い。わ
一。一。く。あ。ら。う。一。ま。う。字。千。也。よ。そ。う。せ。給。ひ。よ。ま。い。少。方
よ。け。あ。の。内。侍。お。り。ま。う。あ。ま。一。ま。ま。ま。ま。あ。き。一。此。式。米。心。を
ま。の。あ。ま。の。ひ。め。ま。ま。も。あ。ま。せ。一。し。う。れ。あ。ま。一。一。り
お。ま。い。ま。ま。ま。人。女。君。乃。か。あ。ま。く。一。ま。わ。く。お。ま。せ。一。花。山
院。の。清。阿。ま。ま。の。一。被。給。ひ。ま。く。一。月。ま。ら。り。い。ま。一。り
四。め。う。被。給。ひ。一。し。と。づ。あ。ま。一。て。け。あ。ま。一。あ。り。ま。い

まゝのちり給ふゆもさぐまりかゝるをいへて後
給ふことさるえとて。此のさぐりかゝるにきつゝえとあるに
よゝりた。二月さすひいひきつゝそいひて後給
ひおゝるまゝのちきりおゝるにあわら。
此のちりかゝるのしははひさすおゝるにけしをた
かゝるもさくたたくまうり給ふたは太おおさ
とのきんちりひつはおがきんそのはむとつゝあ
おとろゝとろとろ。お歸君をいふまうり中總をた
しつゝこのさゝおゝるさり人たりおりくおりしれ
給ふあまゝに歸るさるさきまのりもかおとなたりた。
これかゝるしつゝは給ひもまゝにけしす乃入道ま
しつゝあまゝ今井市景の大まさのり。此田原の大將敷
はのちりまゝにれきん^{きん}乃^乃とてさるてびりの大納言
のさき^{さき}乃^乃のりは給ひしけらそのりくまやとお
ひつゝあらがひしつゝおゝるにさるまゝなま
事きんえ給ひさるしつゝさす給ひしつゝは
けし給ふかゝるさる人たり。おゝるにさるまゝ
給ひあゝるに。さるのり給ひらるしつゝあ
まゝく人の祈とぬんてあゝるに。まゝお
物つらにおゝるすうとてあゝるにさるまゝさ
さる給ひあゝるに。このさるにさるはけしつゝ
女房世人むりもかゝるまゝにさる。えんといへるさ

りでんの内持れりこりはんくわしりもふりんくしりまゝに
 かりありきぬめでぬくおんしりきるよかぬかへ
 おがしりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 もひゆりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 〇るよ思ひれねしりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 しりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 ぶらりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 人あふりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 らんきりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 べりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 さいりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 もちりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 けりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 の^{ちよ}りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 ぱりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 としりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 むいりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 らりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 下後福んりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 りりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりりり
 かか

昔もきりさいとたけり〜かか〜くはく〜時くもや
乃うあつのはり〜かか〜くはく〜半ひ車〜ぞ
むな〜ふ〜り〜車〜とやま〜とてありき〜れけま
む〜く〜ふ〜ら〜ざりきりば今あ方はあ〜り〜は
む〜ん〜く〜ま〜ざりかな〜は〜く〜の〜く〜す
ゆ〜は〜く〜む〜も〜て〜も〜く〜ひ〜た〜り〜す〜て〜の〜も〜れ〜あ
そ〜な〜か〜ら〜〜か〜ら〜〜か〜ら〜〜か〜ら〜〜か〜ら〜
あ〜〜か〜ら〜〜か〜ら〜〜か〜ら〜〜か〜ら〜〜か〜ら〜
い〜わ〜て〜え〜む〜く〜〜か〜ら〜〜か〜ら〜〜か〜ら〜
あ〜〜か〜ら〜〜か〜ら〜〜か〜ら〜〜か〜ら〜

きりあせり〜人あ〜ぞ〜り〜り〜り〜り〜 諸子大徳婦ま
きりあせり〜人あ〜ぞ〜り〜り〜り〜り〜 諸子大徳婦ま
乃君のほ〜く〜れ〜ぞ〜〜と〜り〜乃皇后宮の〜ん〜く〜けあ
〜て〜〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜
の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜
申あ言〜ら〜や〜〜人〜の〜〜〜の〜の〜の〜
右系〜の〜〜〜お〜ん〜せ〜。あ〜れ〜右系乃〜の〜の〜の〜
〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜
〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜
〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜
〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜
〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜
〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜

二行せよと申すはしるき部等の清くしるるの事なり。此の
 所の接段の位はしるきなり。しるきなり。しるきなり。しる
 ちんは母にれぬの事なり。しるきなり。しるきなり。しる
 としるきなり。しるきなり。しるきなり。しるきなり。しる
 あしるきなり。しるきなり。しるきなり。しるきなり。しる
 しるきなり。しるきなり。しるきなり。しるきなり。しる
 しるきなり。しるきなり。しるきなり。しるきなり。しる
 しるきなり。しるきなり。しるきなり。しるきなり。しる
 しるきなり。しるきなり。しるきなり。しるきなり。しる
 しるきなり。しるきなり。しるきなり。しるきなり。しる
 しるきなり。しるきなり。しるきなり。しるきなり。しる
 しるきなり。しるきなり。しるきなり。しるきなり。しる
 しるきなり。しるきなり。しるきなり。しるきなり。しる

事相細言はしるきなり。しるきなり。しるきなり。しる
 ちんは母にれぬの事なり。しるきなり。しるきなり。しる
 しるきなり。しるきなり。しるきなり。しるきなり。しる
 しるきなり。しるきなり。しるきなり。しるきなり。しる
 しるきなり。しるきなり。しるきなり。しるきなり。しる
 しるきなり。しるきなり。しるきなり。しるきなり。しる
 しるきなり。しるきなり。しるきなり。しるきなり。しる
 しるきなり。しるきなり。しるきなり。しるきなり。しる
 しるきなり。しるきなり。しるきなり。しるきなり。しる
 しるきなり。しるきなり。しるきなり。しるきなり。しる
 しるきなり。しるきなり。しるきなり。しるきなり。しる
 しるきなり。しるきなり。しるきなり。しるきなり。しる
 しるきなり。しるきなり。しるきなり。しるきなり。しる
 しるきなり。しるきなり。しるきなり。しるきなり。しる
 しるきなり。しるきなり。しるきなり。しるきなり。しる
 しるきなり。しるきなり。しるきなり。しるきなり。しる
 しるきなり。しるきなり。しるきなり。しるきなり。しる

まししかんじとていつらうらうらぬらぬのよせを獲
 給へばひよはばあよさうりせ給やがあらもまら
 のはあやういよーはきさきてねーせ給ふよ
 取りのますはぶい乃まけなかりとそ一寸おくせ給目
 うらびーはんくさうらよねるくおんーまよはれん
 うらよもせま給ま事なるりまねよ。れよりまは
 ぶくてらうらま獲給へんあまのまき事とそま
 せどかくくおいさく獲給へれんがぶされ教上人
 ぶぶなますうの勢給あるまなこひとけりあり
 ませはなのつらうはたりまきかまのけぶあえこれノ
 一ゆりまの獲給いーるれに圓融院石門ある。ーやど
 のわろ。ーととわりまのやがらまぶあうまやま
 うらめう勢給ひらなまぶれかぶぶほとーつらう獲
 給ひく。又はひまご乃歌中将公成志とあまのわり
 のわらうら給ひく。うらあま由車れまのりまなまら獲
 給あまよまらけまの獲まのまらまらまらまら
 もこの君とろうくまらうりてねん。引湯あへー法さ
 まげりまのら獲給ひてそまらまらまら獲給くまら
 させ給へんじてまらわゆる也とそおかせられまら獲
 量壽院乃金堂供養り。東宮幼裕のる由車。よさうら
 獲給ひく。ひらみら公成おけり。ま獲と。おかどに
 う成給へる獲給ひけな。あまられたまらまらまら

一とかなんあやととくまおやせくまひれ志
 げさぐめい乃むすめれ中務乃めのことしりこよはた
 うてきさくむらりゆるあり頭中將顯基の系を
 けりまおりこころやゆりつげ空系よりこころ
 て大政後一うらうめさ後終ひくれおひらの右邊り
 そいさきさくえ終くあやこころのなと終くさ
 りさくもむつらめよぶるれかいらんと右邊り
 系ら并るくふんやまく終ひれんぞのづら
 きさくはあまもさうあつと大政大臣
 の終くせけんよとくまの終くせけんこれ
 うとあは終くはるか中一も位おの澄國志つれ
 は終くせけんよとくまの終くせけんこれ
 ありよとくまの終くせけんこれ
 ちさくはととくまの終くせけんこれ

大政大臣兼家乃おとくまの九系教のこころ
 ねとくまの終くせけんこれ
 圓融院の西むら。一系院之系後の西むら。東之系女院
 贈皇太后乃西むら。一系院之系後の西むら。東之系女院
 らせ終いさうへく五年そおらう。正暦元年十
 月二日し終いさうへく五年そおらう。正暦元年十
 了かえ乃られ終いさうへく五年そおらう。正暦元年十

あつたるの牛車うまにて水陣みづじんまきくつて後移うしろへんたれし
理ことうらまがけはたつら乃程ほどなりとて移うつりしとて
後移うしろもさるがれどさきもいふとてありすまといのち東
まのたよりいせせてあつたつら此こゝ津つ衣えなりあるあとも
なすゆりて水のせりなりけりそさうらも後移うしろは
けりしつらよおきもくつるもやむいなるまのち
あまは少すく方もおつしつらまのちつらなればたつしつらよ
て東三條ひがしさんじょう屋やの西にし対たいと後移うしろ教しやうはつらよあつしつら
いめさつらよせ移うつりたるをあまなりなるまのち
めりしつらよあつしつらよあつしつらよあつしつらよ
あつしつらよあつしつらよあつしつらよあつしつらよ
あつしつらよあつしつらよあつしつらよあつしつらよ
あつしつらよあつしつらよあつしつらよあつしつらよ
あつしつらよあつしつらよあつしつらよあつしつらよ
あつしつらよあつしつらよあつしつらよあつしつらよ
あつしつらよあつしつらよあつしつらよあつしつらよ
あつしつらよあつしつらよあつしつらよあつしつらよ
あつしつらよあつしつらよあつしつらよあつしつらよ

まき月乃おに頼まけし〜とせまくながめさ瑠
きれよあふんしぬゆらう〜とまのりし〜
おんあしきしたて物〜人くまあらちちけごなははは
とろつ後給にぞばま〜がにがらうまらよひひいあ
ち給ひもはかる〜とあけいるち〜とあらひい
なまのすもぞ〜いひ〜のす〜のま
しむ〜院ちあ〜あまらことまはか〜れ〜あひ
ま〜とま〜はあふ〜の〜ま〜とま〜と〜
〜けら〜後給へあがら〜あひ〜の〜あ〜は〜
〜し〜ら〜と〜と〜あ〜人あ〜し〜ゆ〜ま〜ま〜二〜あ〜れ〜と〜

〜と〜ら〜あ〜は〜あ〜る〜中〜尹〜れ〜め〜乃〜は〜し〜平〜あ〜め
院大也二人を〜の母の贈皇后又わ女
〜ら〜ら〜ら〜けらあ〜と〜二条乃大後より〜
う〜け〜ひ〜給〜ひ〜くれ〜し〜志〜ら〜ら〜ら〜と〜ろ〜と〜女
を〜一〜人〜持〜く〜ら〜ら〜ら〜は〜ま〜給〜ひ〜く〜あ〜よ〜ら〜ら〜
給〜人〜を〜り〜持〜し〜け〜ひ〜給〜ひ〜ら〜物〜事〜あり〜と〜も
あ〜ら〜ん〜あ〜ら〜れ〜む〜て〜の〜あ〜ら〜ら〜ら〜り〜も〜じ〜ら〜ら〜
〜と〜と〜と〜ら〜ら〜ら〜後給へ〜と〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
〜と〜と〜と〜人〜と〜後給へ〜と〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
〜と〜と〜と〜人〜と〜あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
〜と〜と〜と〜り〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

さげしうりもきしす。かくてくるといふをせ行ひ
一。清元^{ゲン}服^{ハク}むらむら其事乃り。ふらむ後給ひし。
とや。あのみまこら。いふす。しうりく。おりし。中。ま。ひ。こ
そ。二。あ。の。と。の。ど。う。う。け。一。あ。後。給。り。ざ。り。し。り。ど。う。う。ん。
き。う。の。お。り。な。ん。ど。は。ら。い。ど。う。も。て。か。づ。き。し。申
る。後。給。ひ。一。師。文。一。帝。院。其。は。時。乃。は。修。文。よ。ま。ま。の。傳
給。ひ。一。な。ん。ど。は。は。師。あ。あ。と。う。る。ま。い。ん。お。り。て。い。と
一。う。あ。で。た。う。て。ま。の。う。後。給。よ。あ。ら。し。り。の。あ。ま。く。は。ま
ら。乃。の。い。し。せ。あ。ら。後。給。ひ。う。ら。ふ。ら。も。た。が。ひ。て。伊。や
ま。へ。ご。う。れ。り。一。ゆ。一。た。れ。む。の。入。道。教。よ。あ。く。い。し。あ
ら。一。あ。後。給。ひ。く。畧。同。よ。む。ら。し。一。ゆ。一。て。あ。ま。く。い。し。あ。ら

め。あ。ま。く。い。し。あ。ら。一。ゆ。一。て。あ。ま。く。い。し。あ。ら。し。り。の
後。給。ひ。あ。ら。れ。贈。后。文。の。い。し。と。い。し。う。ら。の。ま。ひ。し。あ。ら。の
ひ。め。ぎ。う。ら。ま。圓。融。院。乃。清。時。む。は。平。の。女。院。と。し。て。一。の。は
ま。ひ。ま。れ。給。ひ。あ。ら。し。り。の。か。ら。い。し。て。東。宮。よ。ま。ま。の。後。給
ひ。せ。し。て。位。よ。け。う。後。給。ひ。あ。ら。し。り。の。母。女。清。の。寛
和。二。年。ひ。の。へ。あ。七。月。五。日。后。よ。ま。ま。の。後。給。ひ。て。中。文。と
し。き。あ。の。み。い。と。一。帝。院。と。し。き。あ。の。母。后。入。道。せ。ら。後。給
ひ。て。太。上。天。皇。と。む。ら。し。き。位。よ。て。女。院。と。ま。ま。の。を。ま。せ。ら
一。天。下。と。あ。り。し。あ。ら。し。り。の。ゆ。一。あ。の。ら。く。れ
と。な。れ。た。帝。乃。君。女。院。乃。清。の。ま。ま。の。道。隆。乃。わ。か。ら。く
由。大。后。よ。て。開。白。せ。ら。後。給。ひ。し。り。清。和。乃。の。陸。奥。守。倫。寧

君より今世入るものよむらうしやうは。後乃由母の
の由しる君達^{まふ}んとくえ乃由ありまふしつらん。由
宣^{せん}公乃由子んきまらに平とけまらまらあか
びにとらりとはに道^{みち}をまよのんきんぞん
あつしあまらうとあきつ

(Faint mirrored bleed-through text from the reverse side of the page)

